

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・例年6月は、夏休み前ということもあって、閑散期となるものの、今年は、幅広い世代の方が当地を訪れている。特に、年配客による個人旅行や10人を超えるような小規模団体旅行が多くみられ、売上や客単価の底上げにつながっている。
	◎	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・地域一体となった人気アニメのイベントが7月まで行われており、PR活動を積極的に行っていることから、ゴールデンウィークを過ぎても集客を維持しており、売上拡大の要因となっている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・力強さには欠けるものの、3か月前と比べると、景気が好転する兆しがうかがえる。
	○	百貨店（売場主任）	単価の動き	・富裕層やインバウンドの購買単価、販売量が好調に推移している。
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・今年の6月は、前年よりも日曜が少なかったことから、減収となったものの、3か月前と比べると、販売量は上向いている。特に、原油価格高騰の影響を受けて、自治体指定のゴミ袋やポリ袋、紙製品、2色刷パッケージ商品などの動きが良くなっている。また、前年から高騰していた米が、今年になり安くなっていることで、ふりかけや魚卵などの関連商品の動きも良くなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・セール効果もあって、買上点数が回復傾向にある。客が価格に敏感なことを実感している。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・フェリーを利用する観光客の動きが良いことから、景気はやや良くなっている。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車発売の効果が顕著に現れている。需要が拡大しており、販売量の増加につながっている。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・天候に恵まれていることもあって、徐々に客足が伸びている。ただし、春先以降、例年にないほど、鼻炎やぜんそくを訴える人が増えていることは気掛かりである。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が徐々に回復している。宿泊客や団体客の利用に一定の動きがみられ、3か月前と比べて、やや改善傾向にある。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・観光需要の端境期となる春先から、夏の繁忙期へと向かうなか、国内線の旅客数は、前年を上回って推移している。国際線の旅客数は、中国路線の減便の影響もあって、伸び率が鈍化しているものの、引き続き前年をやや上回って推移している。これらのことから、景気はやや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・今年は、当地においてMICE需要がみられることから、前年と比べると、景気は良化傾向にある。また、期間限定ではあるものの、海外直行便の運航再開も予定されていることから、観光需要はこれから上向いてくると見込まれる。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・6月のタクシー1台当たりの売上は、前年比で若干のプラスであった。また、ここ数年、乗務員の採用に注力した効果で、当社の乗務員が増えており、タクシーの稼働台数は前年比で約10%のプラスとなっている。このため、6月の売上は前年比で約10%のプラスとなった。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光の最盛期に近づくにつれて、旅客、車両共に輸送量が増加している。特にインバウンドの利用が堅調に推移している。	
○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の商談時間がやや短くなっている。	

□	商店街（代表者）	来客数の動き	・航空運賃の高騰もあって、インバウンドの入込に若干の陰りがみられ始めている。また、アジア系の客が減り、欧米系の客が増えていることで、インバウンドの消費動向も変化しつつある。欧米では、土産文化が根付いていないため、全体的に商品の動きが鈍くなっている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地で国際的なイベントが開催されたこともあって、インバウンドの姿を見掛けることが増えたものの、店舗への来客はそれほど多くなかった。また、平日の昼間は相変わらず人通りが少なかったことから、景気は変わらない。
□	一般小売店（経営者）	販売量の動き	・景気は少しずつ上向いているものの、まだ回復段階までには至っていない。
□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・生活必需品の値上げが続くなか、住民の生活は依然として厳しく、当店の来客数、売上は横ばいで推移している。これまで堅調に推移していた特選ブランドの売上も横ばいになっている。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・客の節約志向は変わっていない。物価高が生活に重くのしかかっており、客から良い話は何1つ聞かれない状況にある。
□	スーパー（役員）	お客様の様子	・特売などにより、米の価格が安くなっていることで、米と関連商材の売上が増加している。
□	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価の上昇が続いていることから、景気は変わらない。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は減少しているものの、商品単価が上昇していることで、売上は引き続き前年を上回って推移している。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の節約志向がかなり強まっている。外出用のおしゃれな服ほどそうした傾向が強くみられる。
□	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・話題商品や人気商品があれば、売上は伸びるものの、そうした商品がなければ、天候に左右されることになる。こうした状況は変わっていない。
□	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・イベントを開催すると、前年よりも多くの客が訪れるものの、車の販売台数は前年を下回っている。新車、中古車にかかわらず、車の価格が高止まりしているため、購入を慎重に考える客が増えている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・5月に新型の電気自動車が発売された。全国的には受注が好調であるものの、当地では電気自動車の需要がまだそれほど高くないため、厳しい状況が続いている。
□	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて、来客数が5%ほど減少している。また、単価の低い商材の売行きが良いことで、売上が当初の見込みを下回っている。これらのことから、景気は変わっていない。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比をみると、3か月前と同じような水準にとどまっている。エアコンの新たな省エネ基準の導入や中東情勢の影響などの特殊要因による売上の変化はみられるものの、景気の影響によるものではないことから、景気は変わっていない。
□	その他専門店「造花」（店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響を見越した先買いにより、現在の客の購買意欲が落ち込んでいる。ただし、その影響度合いは、地域により大きく異なっている。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・客が少ない日が続いており、景気はほとんど変わっていない。全体的に、団体客の利用がみられないことがマイナスとなっている。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・前年の売上を上回ったものの、イベントの効果による一時的な影響であり、景気が上向いているとはいえない面がある。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・今年の6月は、過ごしやすい気候となっていることから、タクシーの利用率が低下している。

□	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・客の来店動向や相談件数は、引き続き一定の水準を維持しているものの、これまでの増加傾向は落ち着き始めている。また、料金プランや通信環境の見直しに関する相談は引き続きみられるものの、客の検討期間がやや長期化しており、すぐに契約に至らないケースも増えている。物価上昇により、客の生活にかかるコスト負担が増えていることから、支出の必要性を見極めた上で判断する傾向が定着しつつあり、全体的には景気は横ばいで推移している。
□	観光名所（従業員）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数が高止まりしたまま横ばいで推移している。景気の良い状態が続いている。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・以前と比べて、客の来店周期が長くなっている。6月に入ってから、来店周期が長くはならないものの、短くもならないといった状況であり、長期化した来店周期が固定化しつつある。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、売上はほとんど変わっていない。ただし、店頭商品の売上が落ち込んでいることは気掛かりである。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建築単価の高止まりと住宅ローン金利の上昇により、客の購買意欲が低下している。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・価格上昇の影響もあって、客1人当たりの買上点数が伸び悩んでいる。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・人口統計調査で目立っている当地の人口減少が、景気の落ち込みにつながっている。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・余計な物を買わないようにしたり、ガソリン代節約のため、買物頻度を減らしたりする動きがみられ、週末にまとめ買いする客が増えている。全体的に、足元の消費動向が上向きような兆しも見当たらない。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年6月は、アイスや飲料の販売量が大きく伸びる時期であるものの、今年は低温や豪雨に見舞われたことで、販売量が大幅に減少している。特に、前年は気温が高めで非常に好調であったことから、落ち込みが目立っている。
▲	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・全体的に、来客数が減っており、売上の良い店と悪い店に分かれている。整備部門の売上や在庫数も減っている。全体的にみると、3か月前と比べて、客単価、売上、利益のいずれも落ち込んでいる状況にある。
▲	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・新型車の発売により、販売量が上向いている面があるものの、客の予算に応じて、値引き額などが増える場合もあるため、一概に景気が良いと言い切れない。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・6月の売上がやや落ち込むとみられることから、景気はやや悪い。街中でインバウンドの姿を見掛けることが多く、天候も悪くなかったにもかかわらず、来客数の少ない落ち着いた日が多かった。また、例年6月に提供しているサケのトキシシラスを使ったメニューについて、今年は水揚げが少なく、高値であったことから、安定的に提供することができなかった。一方、観光客向けの低単価店はにぎわっていたようだ。また、高級店であっても、欧州で修業したシェフのいるイタリアン料理店は、ランチがにぎわっており、客単価も良かったようだ。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・国際的な航空運賃の高騰により、インバウンドの集客が鈍化している。また、国内客についても、国内線の搭乗率重視の経営方針により、座席提供数の減少と運賃の上昇が進んでおり、集客の減少につながっている。
▲	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・円安の進行とインバウンドの増加により、国内の宿泊料金や観光施設の利用料金が高騰している。このため、国内旅行についても、予算オーバーとなるケースが増えており、旅行の回数を減らしたり、日帰り旅行に変更したりする動きがみられる。こうした動きが、受注量の減少や客単価の低下に拍車を掛けている。

	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー運賃の引上げにより、売上は増加しているものの、利用客数が前年比で10%以上減少している。客の外出控えが進んでいる状況がうかがえる。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・物価高が続いていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・引き続き一般住宅の販売動向が非常に悪い。金利の上昇も逆風となっている。これから工務店の倒産が増えることが懸念される。
	×	商店街（代表者）	単価の動き	・買物に対する客の慎重さが目立っている。
	×	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・当地における工事需要の減少、不漁の影響により、来客数及び販売量が大幅に減少している。来客数が回復するような見通しもないため、景気は落ち込むことになる。
	×	衣料品専門店（店長）	それ以外	・季節商材の実売期であるものの、気温の影響に加え、ビジネスシーンでのカジュアル化が一段と進んでいることから、商材と客のニーズにずれが生じている。
	×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の減少が続くなか、減少幅が拡大している。宿泊料金を始めとした旅行費用の高止まりが続いていることから、来客数が回復する気配も感じられない。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越工事に加え、新年度に受注した工事の各現場も早期に本格稼働していることから、好調であった前年を上回るペースで出来高が積み上がっている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫の利用については、バターや粉乳などの乳製品が相変わらず好調であり、空きのスペースが出てくれば、その分、保管量が増えていく状況となっている。トレーラー輸送については、合板や飲料容器が増加しているほか、古紙を中心に、紙パルプにも動きが出ている。道外の雑貨についても、取扱量が増えている。
	○	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・問合せ件数及び受注量が増加している。
	○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上が順調に推移している。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・公共投資と民間設備投資が堅調に推移しており、国内の建設投資は高水準を維持している。ただし、資機材の価格高騰や人手不足の影響もみられることから、先行きはやや不透明である。
	□	農林水産業（経営者）	取引先の様子	・6月は、果物の収穫時期を控えた端境期となるため、景気は変わらない。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・6月の販売量は前年比マイナス11%であった。3か月前の販売量は前年比マイナス12%だったことから、景気は変わらない。
	□	建設業（経営者）	取引先の様子	・多くの商材の入荷について、見込みが立つようになった。ただし、価格が上昇しているため、今後に不安が残る状況である。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・人手不足で対応できない案件が増えている。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・中東情勢の影響により、景気悪化を懸念する声を多く聞く。ナフサ由来の製品や資材について、仕入先の出荷調整による調達遅れや価格上昇がみられることで、収益機会の逸失につながっているという声もある。このため、景況感はやや悪い状況のまま変わっていない。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較すると、不動産登記業務を中心に、売上がやや増えているものの、季節要因を考慮すると、景気はさほど変わっていない。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・様々な商品の値上げにより、受注の動きが鈍化している面はあるものの、前向きな企業や力のある企業では、国の補助金なども活用しながら、設備投資を行っている。全体的にみると、景気は横ばいで推移している。

	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・受注案件が増えていることもあって、3か月前の予測と比べると、売上は増加傾向にある。ただし、ベース商品の売上は、若干減少している。中東情勢などの影響を注視しながら、今後の販売動向を見極めていく必要がある。
	▲	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・売上は前年と変わらないものの、価格改定を実施しているためであり、販売量は減少傾向にある。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・新築住宅着工棟数の減少傾向が続いている。主力商品の1つであるパネルヒーターの出荷台数は前年比90%となっており、4年連続での減少となっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・不動産業や建設業の取引先において、需要はあるものの、資材や原材料の価格高騰、中東情勢の影響による資材の調達遅れなどが生じている。納期の遅れや追加料金の発生、契約への影響などもみられている。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(北海道)	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・3か月前と比べて、求人数は2割の減少となっている。ただし、客先からは、とにかく良い人材が欲しいという声が多く、人材のニーズは衰えていないことがうかがえる。一方、人材エージェントからの的外れな提案も多く、人材エージェントの質が問われ始めている。また、人材側では、多数の人材エージェントを利用して転職先を探す動きが活発になっており、採用が決まっても辞退するケースが増えている。これらのことから、求人企業、人材エージェント、人材の3者のミスマッチが目立つようになっている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数が増えている一方で、求職者は時期的な影響もあって減っている。また、求人の時給がやや低下している状況もうかがえ、景気が良くなっているとはいえない状況にある。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人件数は引き続き減少傾向で推移している。求人をWebで探すことが当たり前になっているものの、自分で企業の話を見聞きして、応募したいと考える求職者が増えており、リアルイベントに参加する企業や求職者数が増加している。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・インバウンドの回復に伴って、宿泊施設などの観光業界の好調が続いている。また、ホテルの新設や航空イベントの開催などによる効果も一定程度みられている。ただし、原材料価格やエネルギー価格が高騰しているなか、ここに来て収益悪化に直面する企業が目立つようになっている。
	□	職業安定所(職 員)	求職者数の動き	・中東情勢の影響で、物価高が一段と深刻になっており、全体的に節約志向が強まっている。このため、景気は厳しいまま変わらない。
	□	職業安定所(職 員)	求職者数の動き	・当地における5月の新規求職申込件数は前年比マイナス5.5%、月間有効求職者数は前年比プラス0.8%であった。
	□	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は前年と比べて減少しているものの、求人数の減少幅は月によって上下しており、求人数の減少傾向が、景気の悪化によるものとはいえない状況にある。
	□	学校[大学] (就職担当)	採用者数の動き	・道内の有効求人倍率はやや弱含みであるものの、企業の新卒採用意欲は高く、人手不足を背景に、採用予定数を維持又は増やす企業が多くみられる。一方、企業側が、採用の質を重視する姿勢も強まっている。学生にとっては、売手市場が続いているものの、早期化する選考への対応が重要になっている。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・中東情勢の影響や円安、物価高などにより、先行きの不透明感が強まっており、求人数は業種を問わず横ばい又はやや減少傾向となっている。
	▲	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・中東情勢の影響により、製造業や卸小売業などにおける中小企業の生産性が低下しており、人員確保の様子見する状況がうかがえる。ただし、現時点では景気への影響はそれほどみられていない。

